

RC

Fake-founda

RCフェイクファンデ

RC
Fake-founda

コンクリートの風合いが蘇る 塗装だから可能になる価値とともに

コンクリートは、建物などの外観をおしゃれに演出する魅力的な素材ですが、放っておくと汚れが目立ちやすく、美しい素材感を維持するには細やかなメンテナンスが必要になってきます。

「RCフェイクファンデ」は、デザイン塗装でコンクリートの風合いを復元するとともに、特殊機能「ラジカル制御 Wガード」と「低汚染機能」が美観の維持という価値を付与します。



Before



After



『コンクリートのリアルな質感』が
まるで新築時のような装いを演出

『美観の維持』という大切なファクターに
「強さ」と「機能」の2つの側面から効果を発揮



躯体の保護機能



Radical Control W Guard

ラジカル制御 Wガード

紫外線劣化に対する塗膜の強さが
躯体保護と塗膜表面の美しさを維持

美観の維持機能



低汚染性
防カビ・防藻性

雨筋や黒ずみの汚れが
付着しにくい機能で美観を護る

躯体の保護機能



ラジカル制御技術

塗膜劣化の原因物質「ラジカル」の活動を抑えることで紫外線から外壁を護ります。
もちろん美観の維持も果たします。

Radical Control
W Guard



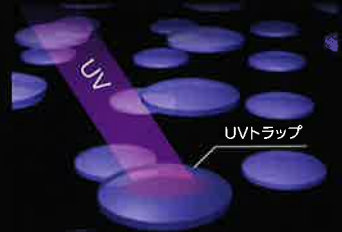
高性能シリコンレジン

超強力な結合エネルギーを持つ国産「高性能シリコンレジン」で紫外線劣化を阻止



UVトラップ

「高性能シリコンレジン」をすり抜けた紫外線を「UVトラップ」で無害化



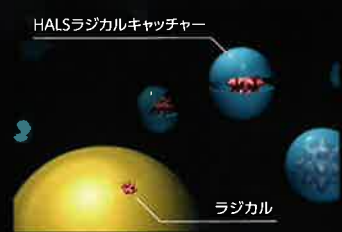
ラジカルバリアコート

酸化チタンへの紫外線到達を阻止しラジカル発生を抑制



HALSラジカルキャッチャー

極微量すり抜けた紫外線によって発生したラジカルは「HALSラジカルキャッチャー」で捕獲し全て無害化。



美観の維持機能



低汚染性 防カビ・防藻性

低汚染性試験で他社品と比較しても雨筋汚れが残りやすく、外観の美しさ保ちます。
カビや藻が建物に影響する美観の問題にも効果を発揮します。

低汚染性試験 (屋外暴露)

RCフェイクファンデ

他社同等品



防カビ・防藻性試験

RCフェイクファンデ

防カビ防藻材を配合しない一般的な塗料



防カビ性試験



防藻性試験



標準塗装仕様

工程	塗料名・処置	塗回数	塗装方法	標準所要量 (kg/m ² /回)	希釈率 (重量%)	塗り重ね乾燥時間 (23℃)
素地調整	【旧塗膜がない場合】	ジャンカ、巣穴、レタンスなどは適切な処置を施した後、表面の汚れを高圧水洗にて乾燥した清浄な面にしてください。(含水率10%以下、pH10以下)				
	【旧塗膜がある場合】	クラック、漏水等の欠陥に対し、適切な処置を施す。劣化した旧塗膜は、適切なケレン工具(皮スキ、ワイヤーブラシ等)で除去し、表面の汚れを高圧水洗にて取り除き、乾燥した清浄な面とする。				
下塗	アレス水性エポレジ もしくは	1	ハケ・ローラー	0.13~0.20	0~10(上水)	4時間以上7日以内
	アレスダイナミックシーラーマイルド	1	ハケ・ローラー	0.12~0.18	無希釈	4時間以上7日以内
中塗り(2回)	RCフェイクファンデ中塗 FF543	2	ハケ・ローラー	0.13~0.23	0~10(上水)	2時間以上7日以内
デザイン塗り	RCフェイクファンデ	1~2	スポンジ ※1 海綿ローラー	0.05~0.08	20~30(上水)	2時間以上7日以内

* 素地のアルカリ度はpH10以下、表面含水率は10%以下(ケツ科学社製CH-2)、または5%以下(ケツ科学社製HI-500シリーズ:コンクリートレンジ)の条件で塗装してください。

* 所要量は被塗物の形状や素材、塗装方法、環境などによって増減することがあります。

*1 スポンジ海綿ローラー(好川産業)は、デザイン塗り専用ローラーです。

荷姿・塗㎡数

RCフェイクファンデ	水性	16kg (4kg)	200~320㎡/回 (50~80㎡/回)
RCフェイクファンデ中塗 FF543	水性	15kg (4kg)	65~115㎡/回 (17~30㎡/回)
アレス水性エポレジ	水性	15kgセット(ベース/硬化剤=12.5/2.5)	75~115㎡/回
アレスダイナミックシーラーマイルド	弱溶剤	15kgセット(ベース/硬化剤=12.5/2.5)	83~125㎡/回

《施工上の注意事項》

- ベースと硬化剤を指定の比率で混合し、電動ミキサーで均一に攪拌してから使用してください。ベースと硬化剤の混合比率が不適切であったり、指定以外の塗料を混合したり、攪拌が不十分であった場合、本来の低汚染機能をはじめ、所定の光沢や色が得られませんのでこれを遵守してください。
- 材料は使用前に内容物が均一になるように十分に攪拌し、開栓後は速やかに一度に使い切ってください。また材料を保管する場合は、無希釈の材料をしっかりと密栓してから直射日光を避けた冷暗所(5℃以上)にて保管し、できるだけ早めに使い切ってください。
- 所要量は被塗物の形状、素地の状態、塗装方法、気象条件、希釈率等の各種条件により増減します。
- 塗り重ね時間は環境(温度、換気の程度)や膜厚によって変わります。
- 希釈率は、環境温度や湿度によって変化することがあります。
- 過希釈の場合、ハジキ・光沢低下・色味変化などを生じる場合がありますので、所定の希釈率を遵守してください。また当該現場で一度定めた希釈率はなるべく同一にしてください。
- ローラー、ハケなどは、ほかの塗料での塗装に使用すると、はじきなどが発生するおそれがありますので、十分に洗浄するか、専用でご使用ください。
- ハケ塗りで補修塗りを行う際、ローラー塗りの上塗り肌や希釈率の違いによる色相差が生じることがありますのでご注意ください。
- 塗装用具などは、その日のうちに洗浄してください(反応形塗料のため固まってしまう)。ハケ、ローラー、スポンジ海綿ローラーなどは水で落ちにくい場合、水性テクトセーフティ洗浄剤を用いて洗浄してください。
- 新設時のセメントモルタルやコンクリート面は、素地のアルカリ度はpH10以下、表面含水率は10%以下(ケツ科学社製CH-2)、または5%以下(ケツ科学社製HI-500シリーズ:コンクリートレンジ)の条件で塗装してください。
- 下地に凹凸がある部材は、本工法は不適です。
- 本工法は、コンクリートの部分補修には出来ません(あくまでも塗り潰し工法です。)
- PC板、押出成型板、などの密閉な素材には、溶剤系シーラー(アレスダイナミックシーラーマイルド、マルチタイルコンクリートプライマー-EPO、浸透形シーラー)をご使用ください。
- シーリング面への塗装は極力避けてください。汚染や粘着、ワレの原因となります。やむをえず塗装する場合には、ノンブリードタイプのシーリング材を用いることとし、「シープラ」または「マ

- ルチタイルコンクリートプライマー-EPO]をバインダーとして扱むことで不具合を軽減することができます。
- ゴムパッキン、塩化ビニル製品などと塗膜の接触は避けてください。可塑剤のブリードによる粘着が起こる場合があります。
- 汚れ、傷などにより補修塗りが必要な場合がありますので、使用塗料の控えは必ずとっておき、同一塗料、同一ロット、同一塗装方法で補修塗装をしてください。
- 素材、旧塗膜の種類などの状態で塗付量の増減があります。使用時間以上経過した塗料は、所定の塗膜性能を発揮しないため、塗料状態が塗装可能であっても使用しないことを厳守してください。
- アレス水性エポレジ 硬化剤混合後、4時間(23℃)を過ぎた場合は使用しないでください。アレスダイナミックシーラーマイルド 硬化剤混合後、7時間(23℃)を過ぎた場合は使用しないでください。
- 建物の構造上、雨掛りの少ない面や結露が生じ易い場合において、塗膜表面に膨れ、白化、艶ムラ、粘着物が発生する恐れがあります。著しい結露が予想される場合は、本工法を避けてください。染み、粘着物等が発生した場合は水道水で十分に洗浄または水拭きにより除去した後、十分乾燥させてください。
- 下地の洗浄に薬剤を用いる場合、薬剤を水で十分に流してください。薬剤が被塗面に残存したまま塗装すると塗膜の膨れ、剥がれ、白化等につながる場合があります。
- 防かび・防藻効果は、繁殖を抑制するものです。すでに繁殖している場合は、下地処理として除去及び殺菌処理をしてから塗装してください。
- 膨れ、剥がれ、白化の発生につながる恐れがあるため、気温5℃未満、湿度85%以上、降雨、降雪、強風が予想される場合や換気が十分でなく顕著な結露が考えられる場合、塗装を避けてください。
- 雨が直接からぬ面や笠木などの水切りが施されていない部位など、建物の形状により低汚染性が十分に発揮できない場合があります。
- 下塗りに溶剤系の材料をご使用の場合、溶剤などの影響により旧塗膜を傷め、膨れ・ちぢみなどの異状が発生することがあります。試し塗りにより確認の上、本施工に入ってください。
- 笠木、天端など長時間水が滞留する箇所では塗膜の白化、膨れなどが発生する場合がありますので、養生シートの設置方法などに配慮し、換気を促してください。

《ご使用上の注意事項》下記の注意事項を守ってください。詳細な内容については安全データシート(SDS)をご参照ください。

【予防策】

取り扱い作業中・乾燥中ともに換気の良い場所で使用し、粉じん・ヒューム・ガス・ミスト・蒸気・スプレーを吸入しないこと。必要な保護具(帽子・保護メガネ・マスク・手袋等)を着用し、身体に付着しないようにすること。吸入に関する危険有害性情報の表示がある場合、有機ガス用防毒マスク、又は、送気マスクを着用すること。又、取り扱い作業場所には局所排気装置を設けること。皮膚接触に関する危険有害性情報の表示がある場合、頭巾・スリッパ・長袖の作業着・前掛けを着用すること。火気を避けること。静電気放電に対する予防処置を講ずること。火災を発生しない工具・防爆型の電気機器・換気装置・照明器具等を使用すること。裸火又は高温の白熱体に噴霧しないこと。本来の目的以外に使用しないこと。指定材料以外のものとは混合(多液品の混合・希釈等)しないこと。缶の取っ手を持って振ったり、取っ手をロープやフックで吊り下げたりしないこと。取り扱い後は、洗顔、手洗い、うがい、及び、鼻孔洗浄を十分行うこと。使用済みの容器は、火気、溶接、加熱を避けること。本品の付いた布類や本品のかす等は水に浸して処分すること。

【対応】

目に入った場合: 直ちに、多量の水で洗うとともに医師の診察を受けること。皮膚に付着した場合は: 直ちに拭き取り、石けん水で洗い落とし、痛みや外傷等がある場合は、医師の診察を受けること。吸入した場合: 空気の清浄な場所で安静にし、必要に応じて医師の診察を受けること。飲

み込んだ場合: 直ちに医師に連絡すること。無理に吐かせないこと。漏出時や飛散した場合は、砂、布類(ウエス)等で吸い取り、拭き取ること。火災時には、炭酸ガス、泡、又は、粉末消火器を用いること。

【保管】

指定容器を使用し、完全にふたをして湿気のない場所に保管すること。直射日光、雨ざらしを避け、貯蔵条件に基づき保管すること。子供の手の届かない場所に保管すること。又、関連法規に基づき適正に管理すること。

【廃棄】

本品の付いた布類や本品のかす、及び、使用済み容器を廃棄するときは、関連法規を厳守の上、産業廃棄物として処分すること。(排水路、河川、下水、及び、土壌等の環境を汚染する場所へ廃棄しないこと。)

【施工後の安全】

本製品は揮発性の化学物質を含んでいますので、塗装直後の引渡しの場合は、施工主に対して安全性に十分に注意を払うように指導してください。例えば、不特定多数の方が利用される施設などの場合は、立ち看板などでペンキ塗り立てである旨を表示し、化学物質過敏症ならびにアレルギー体質の方が接することのないようにしてください。